Ⅲ　各農業改良普及センターの重点活動と一般活動の紹介

みどりの食料システム戦略の推進〔重点活動〕

対　象　土地利用型の農業法人等

普及センターも構成員として参画するグリーン米研究会では、「グリーンな栽培体系加速化事業」を活用し、家畜堆肥の施用によって、慣行栽培よりも基肥の化成肥料を低減する米づくりなど、グリーンな栽培体系の技術の検証に取り組んでいる。

その一環として、12月には管内農業者等を参集した検討会を行い、豚ぷん堆肥を活用した水稲生産、栽培支援システムによる省力化技術及びフレコンハンガー付きGPSブロードキャスターを用いた豚ぷん堆肥散布法を学んだ。

次年度も事業を活用し、検討会開催やマニュアル作成によりグリーンな栽培体系の普及・定着を図っていく。

豚ぷん堆肥を活用した水稲栽培の講演

新規就農者を対象とした研修交流会を開催〔重点活動〕

対　象　管内新規就農者等

令和７年12月17日、みやぎ農業未来塾「若手農業者研修交流会」を開催し、新規就農者や今後就農予定の10名が参加した。研修では、村田町の自然農場「風天」の中山建氏に、自身の農場の柱である自然農法や、就農前と就農後に起こるイベント、注意事項について、自身の経験を踏まえながらお話しいただいた。

その後の交流会では、参加者同士が３つのグループにわかれ、中山氏の話に対する感想や自身の経営などについて率直に語り合い、コミュニケーションを深めた。次年度も引き続きネットワークづくりを含め、新規就農者に寄り添った支援を展開していく。

若手農業者研修交流会

地域農業の維持・発展に向けた組織育成支援〔重点活動〕

対　象　集落営農法人設立予定地域等

地域の核となる経営体等の発展段階に応じた支援を行った。農地整備事業計画地区においては、担い手が集落の農地を集積し、安定した営農を行うことができるよう、複数の地区で普及センター職員を講師とした法人化勉強会を行った。

ワークショップ形式の勉強会では、地区の20年後の姿について、さまざまな年代の農業者が、思いをふせん紙に書き、活発に意見を交わした。また、法人化経営シミュレーションでは、経営の共同化に向け真剣な検討が行われた。２地区で来年度の法人設立に向け準備が進められていることから、引き続き支援を行う予定である。

法人化勉強会

アグリテックの導入・活用支援〔重点活動〕

対　象　土地利用型の農業法人等

水稲、大麦を対象品目として、栽培管理システムを活用した可変追肥の検討、追肥時期判断への活用や地力・生育マップに基づいた可変施肥設計を支援したところ、支援対象の理解が進み、追肥判断の省力化に繋がった。

また、営農管理システムによる法人の営農管理方法の改善を支援したところ、ほ場毎の栽培管理履歴や作業時間が可視化され、作業指示や従事分量配当の時間集計に活用するための話し合いが開始された。

営農管理システムの説明

ブロッコリーの生産振興〔重点活動〕

対　象　ＪＡみやぎ仙南ブロッコリー部会

近年増加しているブロッコリー黒すす病の被害防止を目指して、栽培講習会や現地検討会で防除対策の徹底を呼びかけた。また、農業・園芸総合研究所と連携し、黒すす病発生状況調査を実施し、農薬散布のタイミングが防除効果に大きく影響していることを生産者と確認した。今年度、管内全体では黒すす病の被害が少なかったが、次年度は今年多発した害虫の対策も講じながら、更なる生産振興を図る。

ブロッコリーほ場で情報交換

耕畜連携の推進〔重点活動〕

対　象　土地利用型の農業法人等

家畜堆肥を活用した自給飼料生産のほか、飼料・肥料費高騰対策も兼ねて、柴田町で多収品種「ふくひびき」及び蔵王町で飼料用稲「つきことか」の栽培技術支援等を行った。

また、家畜堆肥（牛・豚・鶏）生産と販売業者一覧表を作成し、家畜堆肥の利用促進に向けて、農業者が参加する会議で説明、HPに掲載するなど広く周知した。12月には、水稲の収量向上に向けた豚ぷん堆肥の施用のポイントを説明した。

自給飼料生産の支援

直売所運営支援〔重点活動〕

対　象　道の駅村田

道の駅村田において、より魅力的な売り場にするための出荷物の管理方法や衛生管理の方法に関する改善の取組を支援した。昨年度から引き続き、園芸推進課の園芸流通ビジネス相談員を講師とした研修会を実施することで村田ファーミーズの生産者には品質の向上や衛生状態の改善の傾向が表れてきている。

また、新規商材としてハボタンの出荷定着を目指し、栽培指導や出荷目揃え会を行い、冬場の販売開始を支援した。

村田ファーミーズ研修会

新規就農者の確保・育成支援〔重点活動〕

対　象　就農希望者、新規就農者

新規就農者を確保・育成するため、相談対応や研修会を開催した。就農希望者については、14人延べ24回にわたり、就農計画作成等について助言した。

また「みやぎ農業未来塾」を開催（４回延べ49人）し、農業大学校生に対する地域農業の紹介、販路の確保や経営リスクに対する知識習得の他、農業士との意見交換の場を設け、営農意欲の向上を図った。

みやぎ農業未来塾

女性農業者の活動支援〔重点活動〕

対　象　女性農業者等

女性農業者の活躍を支援するため、紫外線対策の研修会（12／16）と県農業振興課との共催による農作業機械セミナー（２／10）を実施した。紫外線対策では、メナード化粧品株式会社東北支社の美容のプロから、正しい日焼け止めの使用方法や、シミや皺を防ぐ洗顔方法を学んだ。紫外線対策は一年を通じて必要であり、肌を極力こすらない洗顔方法等を実習できた。

また、「農作業機械セミナー」では、ヤンマーアグリジャパン株式会社東北支社の専門家から、農作業安全のポイントや機械の操作・メンテナンス方法を学び、貴重な時間となった。

女性農業者機械セミナー

農業法人の経営発展に向けた取組支援〔重点活動〕

対　象　土地利用型農業法人、園芸法人

土地利用型農業法人及び園芸法人に対し、課題に応じた情報提供や技術支援を行った。また、必要に応じて専門家に助言を依頼し、経営改善を支援した。

特に、世代交代が間近に迫った法人に対して、組織変更に関する情報提供や専門家派遣等により課題解決へ向けた支援を行った。

また、法人役員等を対象に開催した亘理名取地区地域営農推進研修会において、労働関係法令の改正ポイント、特に労働安全衛生法や熱中症対策等について講義をいただき、労働安全について理解を深めた。

労働関係法令に関する研修会

既存産地の維持・発展支援〔重点活動〕

対　象　しゅんぎく生産者、カーネーション生産者、りんご生産者

管内のしゅんぎくやカーネーション、りんごなどの生産者に対し、気候変動対応や土壌分析を踏まえた栽培管理、後継者育成等の支援を行った。

しゅんぎくは、連作ほ場内の塩類集積に対応するため、土壌分析による土壌の健康診断を行い、巡回や集合研修で分析結果の活用等を指導した。

カーネーションは、夏季高温対策や病害虫対策、施肥改善のため、マルチや防虫ネットの活用、施設土壌内窒素濃度の推移の調査などを支援した。

りんごは、若手りんご生産者を対象としたせん定講習会や先進地視察研修などを通じ、若手生産者相互の交流を促進し、りんご生産者としての見識を広げる活動を支援した。

若手りんご生産者の勉強会

さつまいもの機械化体系の定着〔重点活動〕

対　象　さつまいも生産法人６社

育苗床、本ぽの土壌分析に基づく施肥設計を支援した。りん酸と加里が多いほ場では、窒素のみを施用したことでコスト削減になり、生育も順調であった。

５月の気温が前年より低かったため、採苗が遅れ、植付けが７月中旬までかかった。

手植えと定植機を併用した法人では、植付方法による生育差は見られなかった。

芋収穫機による収穫は、11月下旬までかかった。貯蔵庫がいっぱいになり、収穫が遅れたことがわかり、貯蔵施設の拡大を提案した。

ねずみ対策として、ほ場周辺の雑草防除を指導したところ、被害は、前年より軽減された。

収量は、前年を上回ることができた。

自動操舵システムによるうね立て

堆肥の利活用の支援〔重点活動〕

対　象　堆肥の利活用に取り組む生産者

堆肥を活用する耕種農家に対する農作物の生産を支援し、大規模畜産経営体と連携した堆肥の有効活用を推進した。

具体的には、山元町の大規模畜産経営体の豚ぷんペレット堆肥を山元町の耕種農家が水稲に施用した効果の確認を支援した。ペレット堆肥は、約75kg／10ａをブロードキャスターで散布し、つや姫や飼料用米約20haに施用した。水稲の生育状況を７月時点、収穫時点で確認したが、慣行の施肥をしたものと差は、見られず、生育に支障は見られなかった。堆肥の窒素無機化量を室内培養で確認したところ、早期に発現することがわかった。来年度もペレット製造の状況をみながら利用を検討することとなった。

堆肥の窒素無機化量調査結果の説明

新規就農者の確保・育成・定着支援〔重点活動〕

対　象　就農希望者及び新規就農者等

意欲の高い農業の担い手を確保、育成するため、市町村等と連携し、就農相談や就農計画の作成支援、就農後の経営相談、巡回指導による技術支援を行った。また、「みやぎ農業未来塾」として「気候変動に適応した病害虫防除」に関する研修会と、「共同販売」をテーマに先進農家視察研修会を開催し、新規就農者の早期経営安定に向けた知識の習得を支援した。研修会には延べ23人の農業者が参加し、両研修会とも仙台農業士会の会員に協力をいただき、農業者間での情報交換も行った。

これらの新規就農者に寄り添った支援を通して、新規就農者の営農意欲が高まっている。

先進農家視察研修会の様子

仙台地域農業経営セミナーを開催しました！〔重点活動〕

対　象　仙台管内農業法人

令和７年12月18日、「『待ったなし！』農業法人の後継者確保・育成」と題して、セミナーを開催し、管内の11法人が参加した。

始めに、松倉社会保険労務士事務所代表の松倉氏から、円滑な事業継承の進め方や、次世代に向けた経営者としての心構えについて、講義をいただいた。次に、株式会社舘島田ファームDero代表取締役の大泉氏から、法人化の歩みと社員から代表になるまでの経験や意識の変化などについて紹介をいただいた。

参加者からは、「セミナーの内容は、採用予定者の育成にすぐ応用できそう」などの感想もあり、参加者にとって、課題解決への意欲を再確認する機会となった。

会場全体での意見交換の様子

環境制御技術を活用した施設園芸の生産性向上〔重点活動〕

対　象　有限会社サンフレッシュ松島、マキシマファーム株式会社、株式会社みちさき、株式会社未来彩園、株式会社ベジランド佐藤

大規模施設トマト経営体を対象として主に高温障害や病害虫対策について支援を実施した。遮熱剤や作型調整などの対策で、着果数の増加や果実品質の向上などの効果が認められた。

巡回の際にはウィークリーレポートやサーモカメラを活用し効果を数値的に示し生産者の理解を深めた。黄化葉巻病は耐病性品種の導入や気門封鎖剤の活用によるタバココナジラミの徹底防除で概ね５％以下の被害で抑えることができた。農業・園芸総合研究所と連携した振動装置によるコナジラミ類防除の実証試験は、今作でも密度低減効果が認められＩＰＭ体系の構築に向け着実な進展がみられた。

振動装置によるコナジラミ類防除の検討

土地利用型露地野菜の生産振興〔重点活動〕

対　象　加工用ばれいしょの生産に取り組む経営体：農事組合法人福鶴ファーム
えだまめの生産に取り組む経営体：有限会社薬師農産、農事組合法人かすかわ、有限会社大郷グリーンファーマーズ、株式会社ディーエス、株式会社大郷農産、株式会社あぐりオリザ

主食用米の需要拡大が見通しにくい中、収益性の高い露地野菜への作付転換が管内でも拡大している。

加工用ばれいしょに取り組む農事組合法人福鶴ファームでは、各種排水対策や防除スケジュールに基づいた病害虫防除の実施により生育はおおむね順調に推移した。収量は、前年よりもやや下回ったが2.7t／10ａを達成した。

えだまめ生産に取り組む大郷町の経営体では、8月から10月までの継続出荷を目指し、作付け前から播種時期・品種・栽培面積を話し合い、調整している。作付け後も密に情報交換を行い、リレー出荷による安定販売をすることができた。

今後とも、露地野菜の安定生産と作付け拡大を支援していく。

全自動ポテトプランターによる植え付け準備

中山間地域における担い手の育成と新規作物導入支援〔重点活動〕

対　象　仙台市青葉区（倉内大針地区、大倉日向地区）、仙台市太白区（野尻地区）、大和町（吉田地区）

管内中山間地域において、農地整備事業の担い手となる法人の育成と高収益作物の栽培技術指導及び新規品目の「畑わさび」導入の支援を行った。

高収益作物については、各地域営農計画に基づき品目の肥培管理等を指導し、栽培技術向上を図った。また経営管理改善に向け、研修会への参加誘導やほ場利用計画の策定支援を行い、経営課題の解決に向けた意識が醸成された。

「畑わさび」については、先進地の出荷検討会に参加し、特性等の理解促進を図り、管内に試験ほ場を１か所設定した。

にんじんの収穫に取り組む生産者（倉内大針地区）

オーガニックビレッジ構想による持続可能な農業生産の推進〔重点活動〕

対　象　大郷町有機農業推進協議会等

大郷町では管内で初めて、有機農業の取組拡大を目指す「オーガニックビレッジ構想」に向けて動き出している。大郷町有機農業推進協議会に当普及センターも参画し、有機農業実施計画の策定に向けて、有機農業の取組拡大に向けた取組内容などの計画案の作成を支援した。また、大郷町認定農業者連絡協議会の研修会において、みどり戦略等の説明を行い、環境負荷低減に向けた農業への理解促進を図った。

これらの支援を通じて、地域完結型有機農業モデルの構築を目指す大郷町有機農業実施計画が策定され、有機農業の取組拡大に向けた第一歩に繋がった。

有機農業実施計画検討の様子

新たな担い手の確保・育成〔重点活動〕

対　象　就農希望者、新規就農者等

青年農業者等を対象に「みやぎ農業未来塾 スキルアップ・経営確立講座」を開催し、農閑期の副収入源となり得る取組について現地研修を実施した。

最初に自然薯の掘り取り実演や加工場の見学を行い、雪の下からきれいに掘り出された自然薯が高級食材として取引されること、また、加工処理により保存性が高まり無駄なく出荷できることを学んだ。

次に、県担当者から狩猟制度の説明を受けた後、害獣駆除を兼ねた狩猟に取り組む生産者から、狩猟の実際についての話を伺うとともに、イノシシの解体の様子を見学した。現場の緊張感から食べる楽しみまで、狩猟についての理解を深めることができた。

イノシシの解体を見学する参加者

女性のパワー全開！一緒にマルシェ出店しました！〔重点活動〕

対　象　女性農業者

令和６年度から県北３普及センター（大崎、美里、栗原）合同で、若手女性農業者等の地域での活躍や交流を支援する事業を実施している。

令和７年度はマルシェ出店を目標に２回の講座を開催し、女性農業者８人で「おおさき産業フェア2025」への出店を果たした。講座の参加者全員で考案した“農Lady ♡農Life”のキャッチフレーズとロゴマークを掲げ、農産物や加工品、多肉植物、水引ストラップ等を販売した。ブースには多くのお客様が訪れ、会話を楽しみながら買い物するなど盛況であった。

一つの目標に向かって取り組んだことで、女性農業者同士の地域を超えた連携が生まれた。

みんなでマルシェ出店！

若手繁殖農家の技術・収益性向上支援〔重点活動〕

対　象　岩出山地区の新規繁殖農家、若牛会

近年の飼料費の高騰や子牛価格の下落により、経営を開始して間もない若手繁殖農家にとっては厳しい状況が続いている。そこで、技術向上による経営の安定化を図るため、岩出山地区の若手繁殖農家で組織される「若牛会」を対象に、市場の販売データ及び繁殖データの収集・分析を行った。分析結果は各生産者にフィードバックし、飼養技術の改善に役立てた。また、牛舎巡回勉強会を開催し、飼養管理方法や各生産者が抱える課題について情報共有を行った。これにより、自身の飼養管理や経営を見直す契機になったとともに、若手生産者同士のネットワーク構築と連携強化につながった。

牛舎巡回勉強会の様子

管内農業法人等育成・経営安定化支援〔重点活動〕

対　象　管内農業法人、集落営農組合等

各市町の「地域計画」において「農業を担う者」に位置づけられた農業法人及び集落営農組合等の経営の安定化と持続的な営農推進に向け、関係機関（市町、ＪＡ等）と連携しながら、これら担い手組織の営農状況を把握し、ニーズに応じた支援を行った。

主な支援内容として、経営規模拡大に向けた水稲乾田直播栽培等の省力化技術の導入支援や、各種補助事業の活用に関する助言を行った。また、専門家派遣制度を活用し、集落営農組合や認定農業者等３件の法人化計画の策定を支援するなど、担い手組織の営農体制強化や経営の発展を図った。

集落営農組合の法人化説明会

古川なすの総合防除技術の定着〔重点活動〕

対　象　ＪＡ古川なす部会

ＪＡ古川なす部会では、土壌病害の発生による生産量の減少が問題となっている。しかし、対策である土壌消毒は実施可能な時期の制約や作業負荷も大きいことから、実施を断念する生産者もいる。そのため、土壌病害の減少を目的に、複数の対策を組み合わせた総合防除の実施を支援した。

土壌分析に基づく養分バランスの改善、土づくり資材による土壌物理性及び生物性の改善、生育中の適切な肥培管理やかん水管理による根の健全化、抵抗性台木や自動消毒ハサミの導入など、耕種的防除方法を複数組み合わせた総合的な防除対策を推進した。これらの取組により土壌病害が軽減し、前年を上回る収量を確保することができた。

現地検討会の様子

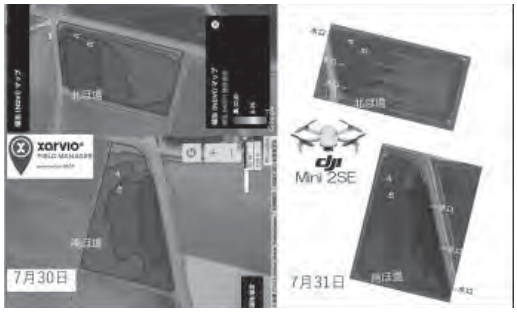
アグリテックの導入支援〔重点活動〕

対　象　アグリテック導入志向者

担い手への農地集積が進む一方で、資材価格の高騰や労働力不足などにより、アグリテック（スマート農業技術）を活用した水田農業の省力化・効率化の重要性が高まっている。

そのため、担い手へのアグリテックの取組推進を目的に、水稲の各調査ほ場をＲＧＢドローンで空撮し、生育量の評価や渇水時の土壌水分ムラの観測などにより、活用例を作成して『稲作情報』等を通じて情報発信を行った。

また、大規模経営体に対して栽培管理システムの導入を支援するとともに、生育ステージ予測やNDVIマップの活用に関する助言を行った。システムの導入により、栽培期間を通して入力された水稲の作業記録の集計や作業進捗を可視化することができた。



生育ムラと土壌水分ムラの観測

地域農業担い手の経営発展に関する取組〔重点活動〕

対　象　経営発展を志向する経営体

経営発展を目指す農業法人や個人経営体に対し、必要に応じて関係機関とともに専門家派遣を活用しながら課題の解決に向けた支援を行った。

特に美里町中埣地区４法人の合併については、町やＪＡと連携して重点的に支援を行い、合併方法の検討や財産処分について国の関係部署に確認した。各法人における出資の取り扱い、契約の進め方などについて、税理士や司法書士の協力を得ながら法律・税務上の課題について検討を重ね、令和７年12月に合併契約が締結された。その結果、令和８年４月には県内初の農事組合法人の合併による新法人が誕生し、県内最大級の200ha規模で経営が開始されることになった。

あわせて、管内の農業法人から20社を選定して訪問し、経営状況や農業生産における課題について聞き取りを行い、生産技術や経営改善について必要に応じた支援を行った。

専門家による指導会

持続可能な土地利用型園芸作物の安定生産〔重点活動〕

対　象　ＪＡ新みやぎさつまいも研究会、農事組合法人みらいす青生、株式会社おいかわ、露地園芸作物生産法人等

管内ではさつまいもやたまねぎの需要拡大から作付面積が拡大している。土地利用型経営体における露地野菜生産では、スケールメリットによる収益確保が重要になるため、省力化や安定生産に向けた取組が必須になる。そこで、関係機関と連携して、直播栽培たまねぎの品種比較・播種適期の検討や、さつまいもの生分解性マルチの実証等を実施した。

また、露地野菜生産の拡大を図るため、ＪＡ新みやぎと共催で「令和７年度露地野菜導入セミナー」を開催し、生産者や市町・ＪＡ等の各関係者、60人に参加いただいた。

セミナーでは、スマート農業技術を活用した効率的な管理や県内の取組状況、管内の直播栽培たまねぎの生産状況、試験研究動向等について情報提供を行った。参加者からは、「人手不足・高齢化の時代の中で収量は変わらなくても負担軽減されるのであればとても良いと感じた。」との声があり、露地野菜生産の省力化への関心の高さがうかがえた。

露地野菜導入セミナー

新規就農者の確保・育成に関する取組〔重点活動〕

対　象　管内新規就農者、青年農業者

管内の新規就農者、青年農業者等の経営管理能力の習得を目的に、みやぎ農業未来塾「経営研修」を開催した。研修には10名の若手農業者が参加し、「農業と『ビジョン型経営』の可能性」をテーマとした経営士による講演と他県の若手農業者とのオンライン交流及びワークショップを行い、活発な意見交換が行われた。

また、将来の担い手となることが期待される新規就農者に対して重点的に巡回指導を行い、就農初期の課題の改善に向けた支援を行った。

みやぎ農業未来塾「経営研修」

ニーズに対応した特色ある米づくりの取組支援〔重点活動〕

対　象　「金のいぶき」生産者、松山町酒米研究会

管内で涌谷町を中心に生産されている巨大胚品種「金のいぶき」では、本年からＪＡ新みやぎがカントリーエレベーター集荷を開始したことに合わせ、穂発芽対策として適期刈り取り指導を重点的に実施した。令和６年産では46％が３等だったが、本年度はほぼ全量を成熟期後１週間以内に刈り取ることができたことから品質は全量２等、収量はほぼ前年並みとなった。

松山町酒米研究会では玄米の品質向上に向け、ケイ酸質肥料の追肥試験に取り組んだ。普及センターでは試験計画の立案から実施まで支援した。試験は中干し前の６月中旬に流し込み施肥により行った。その結果、胴割れ粒が減少し、品質向上の効果が確認された。

酒米研究会生育調査風景

緑肥活用による大豆の作柄向上〔重点活動〕

対　象　管内大豆生産者

本管内の令和７年産大豆作付面積は1,626haと県内有数の産地となっている。しかし、連作として取り組まれている地域も多く、連作障害として収量や品質の低下が見られている。この連作障害の要因の一つとしてダイズシストセンチュウによる被害が想定されたことから、ＪＡの協力を得、連作年数の長いほ場15地点で、シスト着生状況を調査した。調査の結果、密度の高いほ場が確認されたことから、講習会や現地検討等を通し、ダイズシストセンチュウに対する注意喚起を図るとともに、対策として緑肥を活用した実証ほを設置した。また、対策に取り組む農家に助言を行った。

緑肥の播種作業の様子

新規就農者及び女性農業者の活躍支援〔重点活動〕

対　象　就農５年以下の新規就農者、女性農業者

栗原市内の多様な人材の育成と活躍を支援するため、農業機械の操作やＳＮＳの活用に関するセミナー（みやぎ農業未来塾）を３回開催した。

10月23日に開催した第１回輝け農業女子！機械セミナーでは、草刈り機と管理機の安全な使い方とメンテナンスについて、また、11月13日に開催した第２回輝け農業女子！機械セミナーでは、トラクターと管理機の安全な使い方とメンテナンスについて、農機メーカーの社員を講師に講義と操作実習がそれぞれ行われ、これらの学びを通じて不慣れな機械作業への抵抗感の解消と、農機の安全な操作などを身につける機会となった。

２月12日に開催した「農」の魅力を伝えるＳＮＳ活用セミナーでは、ＷＥＢサイト関連業務の専門家を講師に、スマートフォン等による魅力的な写真や動画の撮影方法、ＳＮＳへの投稿（紹介）方法などを学び、農業者間の交流の場、農業経営者としてのスキルアップの場となった。

輝け農業女子！機械セミナー

農業経営の高度化を目指して！〔重点活動〕

対　象　管内認定農業のうち法人化を志向する農業者

地域農業の担い手不足や、事業承継の手段として、農業経営の法人化を志向する農業経営体が増加している。

そこで、普及センターでは、経営相談の実施やセミナーの開催等を通じて、農業者のニーズを把握するとともに、法人化に至るまで伴走型支援を実施してきた。

令和７年度は、認定農業者２戸による共同作業体の法人化について、事業内容の策定から定款作成の他、専門家を活用した法人運営体制の準備、法人登記の伴走支援を実施した。

その結果８月に登記が完了し、法人設立に至っている。設立後は、税務、社会保険等の整備に向けた支援を継続的に行っている。

また、12月には「くりはら農業法人化セミナー」を開催し、法人化に興味のある農業者に法人化に向けた情報提供を行った。

法人化セミナー

地域農業の柱となる露地園芸品目の生産支援〔重点活動〕

対　象　農事組合法人平形農園

栗原市金成津久毛地区では、農地整備事業の実施にあわせて令和元年から試験的に様々な露地園芸品目が作付されてきた。令和７年度は、暗きょ等排水条件を整備した複数の高収益作物試験ほ場において、加工用トマトやたまねぎ、ブロッコリー等の作付が行われた。

普及センターでは、特にたまねぎについて直播栽培技術の習得に向け関係機関と連携し支援を続けた。この結果、例年以上に良好な苗立ちを確保できており、令和８年６月の収穫に向け大いに期待が高まっている。

農地整備完了後の効率的な輪作体系の確立に向けて、県農業・園芸総合研究所や農業農村整備部と連携した支援を続けており、来年度は一層優先度を高めて活動していく。

収穫への期待が高まる直播たまねぎ

水稲の省力・低コスト化及び実需ニーズに対応した生産支援〔重点活動〕

対　象　水稲乾田直播栽培生産者、多収穫米生産者

担い手農家への農地集積が進み経営規模の拡大が進展する中、栗原管内では、水稲の省力化を図る乾田直播栽培や、高温登熟耐性を有する多収性品種の取組が広がっている。

これらの取組を支援するため、生育調査ほ場を設置し、生育ステージごとの生育量や出穂期、登熟状況等を継続的に把握した。調査結果は取りまとめ、生育技術情報として関係機関および生産者へ提供し、適期追肥や水管理などの栽培管理の参考となるよう情報発信を行った。

特に、多収性品種「にじのきらめき」については、生産者ほ場の巡回により生育状況を把握した。また、検討会において栽培上の留意点を説明し、品種特性を踏まえた栽培技術の向上を支援した。

「にじのきらめき」検討会

新規就農者の確保・育成に向けて〔重点活動〕

対　象　就農５年以内の新規就農者及び就農希望者

管内の新規就農者及び就農希望者のスキルアップを図るため、全３回のみやぎ農業未来塾を開催した。１回目は古川農業試験場で研究成果の講義や試験場内の視察を行い水稲、麦、大豆の最新の研究成果について理解を深めた。２回目の宮城県農業大学校の生徒を交えた視察研修会では、管内生産者３戸への視察を通じて、就農後のイメージ醸成と篤農家の経営について学習した。３回目は県農業・園芸総合研究所と農業農村整備部より土壌、病害虫、排水対策についての講義が行われ、実践的な知識を得ることができた。

次年度も引き続き新規就農者の育成に向けて、未来塾を開催していく。

管内篤農家への視察研修の様子

法人設立支援と加工用トマトの栽培指導〔重点活動〕

対　象　東和町内ノ目地区担い手４人

東和町内ノ目地区は、経営体68戸、農地面積30ha程度の小さな集落ですが、令和８年度に農地整備事業が実施される予定で、事業を契機に担い手法人を設立しようと話し合いが進められ、担い手４人で法人設立を目指している。

法人を運営するにあたり、水稲以外の収入源を確保するため、試験的にレンコン、加工用トマト、さつまいも等の野菜栽培に取り組んでいる。特に加工用トマトは定植・収穫作業が機械化されていることから担い手は有望視しており、普及センターでは栽培指導の他、機械導入計画や事業計画の策定支援などを行った。

加工用トマトの定植と収穫作業の様子

いちごの収量・品質の安定化に向けて

対　象　ＪＡみやぎ登米 米山イチゴ部会

県北のいちご産地である登米管内（米山・南方・迫地区）は、作付面積約5.5ha、産出額約１億円となっている。普及センターでは収量・品質の安定化に向け、農業・園芸総合研究所と連携しながら、米山地区での個別巡回や現地検討会を実施し、肥培管理や病害虫防除、高温対策、花芽分化に基づく適期定植の指導を行い、生産技術の向上を図った。

また、令和８年度から一般生産が始まる新品種「みやぎi3号（ころろんベリー）」の展示ほを設置し、調査を通じて栽培特性や慣行品種との相違を整理した。一連の取組により、高温下でも生育が安定し、次年度以降の技術改善と新品種導入に向けた知見を蓄積した。

研修会で展示した登米市米山産の
「みやぎ i3 号（ころろんベリー）」

持続性の高い畜産経営基盤の確立支援〔重点活動〕

対　象　管内畜産経営体（繁殖牛）

全国和牛能力共進会北海道大会に向けた肉用牛の改良や、自給飼料の生産基盤を強化する取組を支援している。

また、能力の高い優良種雄牛候補牛の選抜や繁殖雌牛群の造成のための協力農家への巡回や保留子牛選定会の活動支援を行った。

令和７年度については、宮城県共進会において登米和牛育種組合が団体として名誉賞を受賞するなど、活動の成果が具体的に表れてきた事や、令和７年の年末から令和８年１、２月に肉用牛子牛価格が堅調な推移を見せた事などから繁殖牛を飼養する農業者の意欲が高まってきている。

登米市畜産共進会（肉用牛の部）

「みどり認定」に対する支援〔重点活動〕

対　象　環境負荷低減に取り組む生産者

「みどり認定」は、令和４年に施行された「みどりの食料システム法」に基づき、化学肥料・農薬の使用低減等に取り組む農業者を公式に認定する制度である。

ＪＡみやぎ登米は、平成15年度から管内全体で環境保全米（Ｃタイプ：化学肥料・化学農薬の施用量を県慣行の１／２以下とした生産基準）に取り組んでいるが、環保全米栽培者1,379名を対象として「みどり認定」を申請、普及センターでも土壌分析や施肥設計等の支援を行い、８月26日にグループ認定を受けた。

これは県内で最も多いグループ認定数及び面積であり、この認定により県内の認定者件数は一気に増加した。

認定証を受け取る石川組合長（左）

夏季の高温・少雨への対応〔一般活動〕

対　象　登米管内生産者

６月中旬から８月にかけて高温と極端な少雨が続き、ほ場に亀裂が生じるほど乾燥した水田が出るなど、農作物への影響が心配された。

このため、農業生産に関わる関係機関を参集範囲とし、７月31日に米づくり推進登米地方本部生産振興部会を開催し、関係機関内での情報共有を図った。

会議では、農業農村整備部からダムの貯水量や今後の農業用水の見通し、各機関からは農作物への影響報告等の説明があった。普及センターからは、水田での節水に効果的な「飽水管理」の徹底をお願いし、生産者へは各機関から周知を行うことを確認した。

登米合庁での会議の様子

次代を担う多様な担い手の確保、育成と就労環境整備支援〔重点活動〕

対　象　就農希望者、認定新規就農者、雇用就農者、女性農業者、農業経営者、農業法人等

石巻北高校食農系列在学中の生徒に対し、進路選択の参考となるよう、先端技術を導入している農業法人を講師とした「みやぎ農業未来塾」を開催し、学習意欲の向上を図った。

３学年向けに行われた講演では、大規模施設園芸法人代表から、「常識的なことは知っていてもそれを実行しない自分がいる。ブラックな自分に打ち勝つことが社会の中で生きていくために必要」等の話があった。

また、２学年向けには、土地利用型法人において、大豆の汎用コンバインによる収穫作業、自動操舵トラクターやドローンなどのスマート農業機械の見学を行った。生徒からは、「農業のイメージが変わった」と驚きや興味が示され、新しい農業への理解が深まった。

みやぎ農業未来塾

地域計画の実現に向けた取り組み支援〔重点活動〕

対　象　地域計画策定区域、目標地図に位置付けられた経営体及び今後見込まれる経営体等

地域計画実現促進地区に設定している石巻市河南広渕の農地整備事業（深谷東地区）において、担い手に位置づけられている深谷東営農組合員（29人）に対し、農業農村整備部と連携し、法人化に関するアンケートを実施し、その結果をもとにした勉強会を開催した。

アンケート結果により、新法人の経営に参画意向のある組合員が明らかになり、法人化に向けた話し合いにつなげられる見込みとなった。また、同組合では令和８年に農地整備地区内で「さつまいも」を試作予定であり、普及センター主催の現地検討会や、県主催のさつまいも栽培研修会に組合員が出席するなど、導入に対する意欲が感じられた。

深谷東営農組合法人化勉強会

法人経営体の経営安定支援〔重点活動〕

対　象　株式会社ＤａｎｎｙＦａｒｍ、株式会社イグナルファーム、株式会社ビッグリバー、かのまた営農組合、須江営農組合

補助事業を活用した法人や業務改善を図る法人、法人化を目指す生産組織について、経営高度化支援チーム会議において検討を図りながら、個別支援活動を行ったほか、農業法人経営力強化研修会を開催した。

このうち、（株）ＤａｎｎｙＦａｒｍは、なすの販売額が増加したが、事業の営農計画どおりの数値には届かず、資金繰りや営農計画の見直しを支援した。（株）イグナルファームは、生産計画の進捗管理を実施しており、安定生産、組織運営に向けた意欲は高い。須江営農組合へは、必要な諸官庁への届出事務を支援し、農事組合法人須江営農として法人化した。

農業法人の経営力強化研修会

地域における園芸振興品目(①たまねぎ、②いちご)の生産推進〔重点活動〕

対　象　たまねぎ生産法人３社、ＪＡいちご地区部会３部会、いちご生産法人７社

①たまねぎ

９月中旬から10月中旬にかけてほ場選定、ほ場準備、直播作業の進捗を見守り、苗立ち率の結果と合わせて排水対策について助言した。苗立ち後は１か月に１回程度、生育状況を現地確認した。播種時期の大雨により苗立ち率は全般的に低くなったが、対象の３法人は収穫機械を導入するなど、たまねぎの生産拡大に意欲をもっている。

②いちご

ＪＡ地区部会の現地検討会やその他の対象者への個別巡回により、育苗管理や定植後の栽培管理を支援した。令和７年の育苗期は異常な高温だったが、花芽分化や出荷開始の時期は概ね平年並みとなった。

たまねぎ現地検討会の様子

水稲乾田直播栽培導入農家の早期の技術習得支援〔重点活動〕

対　象　深谷東営農組合、中埣水稲生産組合ほか乾直新規取組者

乾田直播栽培の新規取組者を中心に、巡回指導や情報提供、ＪＡ主催の現地検討会や研修会など活用し、稲の出芽と除草剤散布のタイミング、追肥の有無など技術支援を行った。農地整備直後のほ場での生育ムラ、地力が低いほ場での収量低下、基本的な除草体系など今後の課題が整理された。収量は420～480Kg／10ａとなりさらなる向上を目指す。

令和８年度は、普及センターのプロジェクト課題とし、除草剤の適期散布、土壌タイプ、土壌分析にもとづく施肥体系など基本的な技術支援を実施するとともに、地力ムラに対応する可変施肥、省力的な追肥方法などを検討する。

スリップローラーシーダーでの播種作業

１新たな担い手の確保・育成支援〔重点活動〕

対　象　本吉響高校、農業大学校、認定新規就農者、若手農業者

農業の担い手が減少する中、担い手の確保・育成を図るため、本吉響高等学校と連携した活動を行った。気仙沼合庁地場産品直売会への出展を調整し、令和７年８月に農業専攻の生徒と引率教諭が、高校で栽培したトマト、きゅうりやピーマンなど旬の野菜を販売した。生徒にとって、自ら育てた農産物を販売する経験となった。

12月には、気仙沼市大島の特産果樹である「ゆず」について理解を深めることを目的に「気仙沼地区みやぎ農業未来塾」を開催した。未来塾では、大島地区のゆず農家を講師として、ゆず栽培の歴史、生産状況、栽培管理等についての講話や収穫作業体験を実施し、農業専攻の生徒が農業現場の実際を学ぶ機会となった。

農業未来塾の様子

２復旧農地における営農組合等の経営安定〔重点活動〕

対　象　復旧農地で営農する営農組合

復旧農地の担い手として活動している営農組合等の経営安定と持続的発展のため、定期的に稲作情報を配布して栽培管理や病害虫防除について情報提供するとともに、定期巡回による営農状況等の確認や助言等を行った。

１月に開催されたＪＡ新みやぎ南三陸地区担い手研修会・意見交換会には多くの営農組合が参加し、普及センターから、みどり認定、Ｊクレジット、みえるらべる等について説明するとともに、水稲でみどり認定が受けられる肥料、農薬の使用例について情報提供した。また、地域の担い手にとって課題である経営継承について情報提供を行った。

環境保全米の取組支援

３中山間地域における持続的な営農構築支援〔重点活動〕

対　象　気仙沼市表山田・三段田地区担い手農家

気仙沼市表山田・三段田地区は、ほ場整備事業の導入を計画しており、その実現に向けた支援活動を実施した。

担い手の規模拡大に向けた作業効率化技術の導入を支援するため、地区内に生育調査ほを設定しながら、水稲直播栽培や大麦栽培の安定化と定着に向けた技術指導を行った。

当地区では、ほ場整備を契機に高収益作物として枝豆の作付を計画しているため、枝豆の栽培実証ほを設置して生育調査や収量調査を行い、高収益作物の導入に向けた検討を支援した。

また、地域内の担い手等を対象として、枝豆の栽培技術に関する研修会を開催した。研修会では、実証ほの取組状況を説明するとともに、種苗業者から枝豆の品種や栽培管理、緑肥の活用等について講習を受け、今後の生産性向上に向けた知識を深めることができた。

枝豆実証ほでの生育調査

４環境に配慮した稲作の生産拡大と生産支援〔重点活動〕

対　象　環境保全米生産者

令和７年度から管内２か所のほ場において環境保全米の試験栽培が始まり、普及センターではＪＡ新みやぎ南三陸統括営農センターと協力して、６月から定期的に生育調査を行った。７月と８月に関係機関や生産者を参集して現地検討会を行い、生育状況の確認を行うとともに、普及センターから生育調査の結果や管内の水稲の生育状況について情報提供をした。

調査の結果、環境保全米の収量は慣行栽培に比べて少なくなったが、品質検査では両ほ場の環境保全米ともに１等米となった。

現地検討会

５大規模園芸法人の経営安定化支援〔重点活動〕

対　象　株式会社サンフレッシュ小泉農園、株式会社グリーンファーマーズ・宮城

株式会社サンフレッシュ小泉農園を対象に、月１回の定例会を実施し、トマトの高温対策や尻腐れ防止、ハウスの温度ムラ解消による収量向上を支援したほか、スマート農業や農福連携の支援・情報提供を実施した。病害虫発生に対しては、試験場と連携して被害最小化を図るとともに、防除計画の作成支援を行った。

株式会社グリーンファーマーズ・宮城を対象とした支援体制構築に向けて、関係機関による協議を行い、気候変動に対応したねぎの作型や、ほ場条件に応じた作付時期、品種導入に関する支援方針を整理した。また、反収向上に向け、農業・園芸総合研究所の協力により、排水対策試験や、ドローンを用いたねぎの防除省力化試験を実施し、排水性の改善、防除効果を検証した。

ドローンによるねぎの防除省力化試験

６環境制御技術を活用した栽培技術及び病害虫適期防除体系確立支援〔重点活動〕

対　象　階上いちご復興生産組合、階上いちご第２復興生産組合、有限会社水山養殖場

いちごの環境制御技術に関する栽培講習会を12月に実施し、生産者の技術習得を支援するとともに、個別巡回により環境制御技術の適切な実践を確認し、必要に応じた助言を行うことで、収量向上を支援した。

また、管内で発生が見られる病害を対象に、ＲＡＣコードごとにまとめた防除資料を作成し、農薬のローテーション防除への理解促進を図った。あわせて、個別巡回により情報提供を行い、適切な農薬選択を推進することで病害による収穫ロスの低減が図られた。

夏期高温下における育苗技術の向上を目的として、普及センターが視察先の調整を行い、８月に石巻市、東松島市のいちご生産者への視察研修が開催された。両市の夜冷短日処理、受け苗等の管理技術を学び、次作に向けた改善や受け苗等の新たな技術導入が図られた。

いちごの視察研修会